

1 High Risk 妊娠の周産期管理に関する研究

① High Risk 妊娠の周産期管理に関する研究

日本医科大学産婦人科学教室

教授 室 岡 一

研究目的

前年度に引きつづいて、High risk 妊娠の周産期における注意事項として、本年度は特にRisk factor の重みづけを求め、もって実地医家が数多い診療項目の中から、どれを重点的にとりあげていくべきかを検討し、管理に関する指導要項を作成することとした。

研究方法

1) 母体死亡発生時の初期症状についての調査

当教室ならびに派遣病院9病院について最近10年間、総計39346例の分娩例中、母体死亡、ならびにその早期症状を求めた。なお開業医から依頼の母体死亡例については、さらに初診の医家をおとずれ、初診時の初期症状を求め、High risk 妊娠の Risk factor としての最も注意すべき項目とした。

2) 新生児死亡とその後遺症についての Risk factor は、その前段階である胎児発育障害例を求め、当教室及び派遣病院9病院の統計を集計した。総計138例のうちSFD 69例、対照AFD 69例を設定した。

3) 妊娠ラットを用いて、子宮動脈の結紮、アクチノマイシンD、レセルピンの投与、飼料1/3減食などの方法によって、ラットSFD仔を作製し、SFD児の発生の現状を求めた。

調査成績

1) 母体死亡について、最近10年間における母体死亡率は総分娩数39,346例中20例で0.049%であり、妊産婦死亡率は1000に対して0.49となる。このうち直接産科的死亡数は16例、間接産科死亡数は4例となる。

2) 母体死亡の早期症状は、痙攣、昏睡、高血圧、蛋白尿、下腹痛、腹痛、分娩時出血、心疾患、貧血、一腎の摘出などであるが、これよりさらに早

期の症状としては一週間の体重増加が500gr以上、高血圧、蛋白尿、妊娠前の合併症(心疾患、白血病など)などが注目される。

3) 子宮内胎児発育遅延を来した症例を分類すると図2のようになって、胎盤、臍帯異常、分娩異常、他科疾患の合併などの発生頻度が高い。このうち、同じ子宮内発育遅延でも母体の小さいものは、その発生が高く、これらの子後は良好であって重視する必要はない。そこで、それ以外の症例についてさらに検討をすすめると、その早期症状としては子宮底長が妊娠28週ごろから低かったものに、胎児発育障害が高率に発生していることがわかった。すなわち、AFD 223例中子宮底長の低いものはわずかに38例、17.0%であるが、SFDでは37例中26例、70.3%となり、推計的有意差が認められる。($\chi^2 = 48.46$)

ここで子宮底長が低いと予後が悪いという群は、具体的には妊娠28週で22cm未満、30週で24cm未満、32週で26cm未満である。なお臍帯、胎盤異常には前回人工妊娠中絶などの既往を認め、このような症例には注意するよう指示された。

4) SFDの症例について non stress test を実施した結果、出生時Apgar Score の低いもの、新生児呼吸障害の発生がみられた。

まとめ

1) 母体死亡をおこすような危険因子として、日常の妊婦診察時にとりわけ注意すべき項目は、一週間の体重増加500gr以上、高血圧、蛋白尿、他科疾患の合併、異常出血であり、これらの出現には慎重な態度で臨むべきである。

2) 母体死亡をおこすような症例は、分娩時では出血、痙攣が主体となっている。これらの徴候には慎重でなければならない。

3) 新生児死亡あるいは後遺症への配慮として、これらの発生の多い胎内発育遅延を考えると、日

常臨床では子宮底長の伸び率に注意して早期発見につとめ、その疑いがあれば non stress test など胎児・胎盤機能検査の実施が望ましい。

4) 胎盤、臍帯因子の重要性に鑑み、妊娠前の中絶の害を考慮し、避妊法の適切な指導が望まれる。

5) 実験動物の成績でも胎仔発育不全例の発生は、

胎盤への血流量の少ない分野の子宮腔内に限られた。なお、またアクチノマイシンD、レセルピン投与による胎盤所見の不良な例には胎内発育遅延がみられ、すなわち物質透過の障害がみられた。膜透過性の問題から、実施臨床では妊娠中毒症の防止が重要なことが指示された。

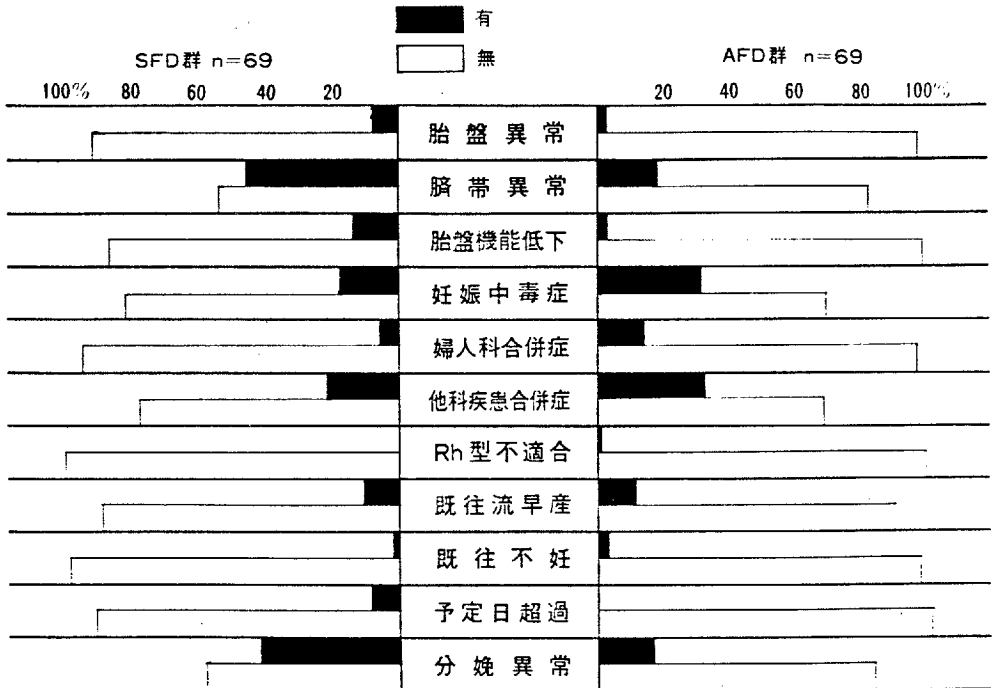
図1

母体死亡例の初期症状

体重増加(500g/W以上)	: 12
高血圧	: 10
蛋白尿	: 10
下腹痛・腹痛	: 7
分娩時強出血	: 5
けいれん	: 3
昏睡	: 2
心疾患	: 2
出血	: 1
貧血	: 1
1腎摘出	: 1
入工中絶	: 1

図2

合併症とAFD・SFDとの関連



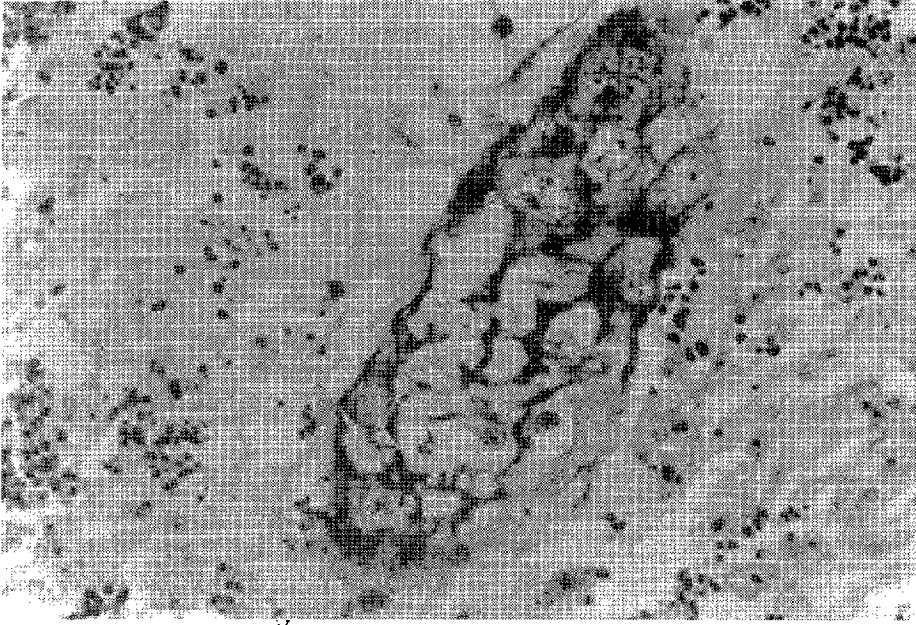


図3 ラット体盤のフィブリン沈着
(アクチノマイシンD投与例)

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

研究目的

前年度に引きつづいて,High risk 妊娠の周産期における注意事項として,本年度は特にRis-k factor の重みづけを求め,もって実地医家が数多い診療項目の中から,どれを重点的にとりあげていくべきかを検討し,管理に関する指導要項を作成することとした。